

第5章 付録 ④ CQ16~20

2. エビデンスの収集と選定 (CQ16~20)

- CQ 16 ステロイドパルス療法は ASD に対して有用か
- CQ 17 メトレキサートは ASD に対して有用か
- CQ 18 シクロスボリンは ASD に対して有用か
- CQ 19 疾患修飾性抗リウマチ薬は、ASD の関節炎に対して有用か
- CQ 20 TNF 阻害薬は ASD に対して有用か

資料作成：自己免疫疾患に関する調査研究班

本資料を無断で、複製・転用等することを禁じます。なお、資料の内容を雑誌、書籍、CD-ROM 等へ転載・掲載する場合は、事前に「株式会社 診断と治療社」へご連絡ください。

ASD CQ16

【4-1 データベース検索結果】

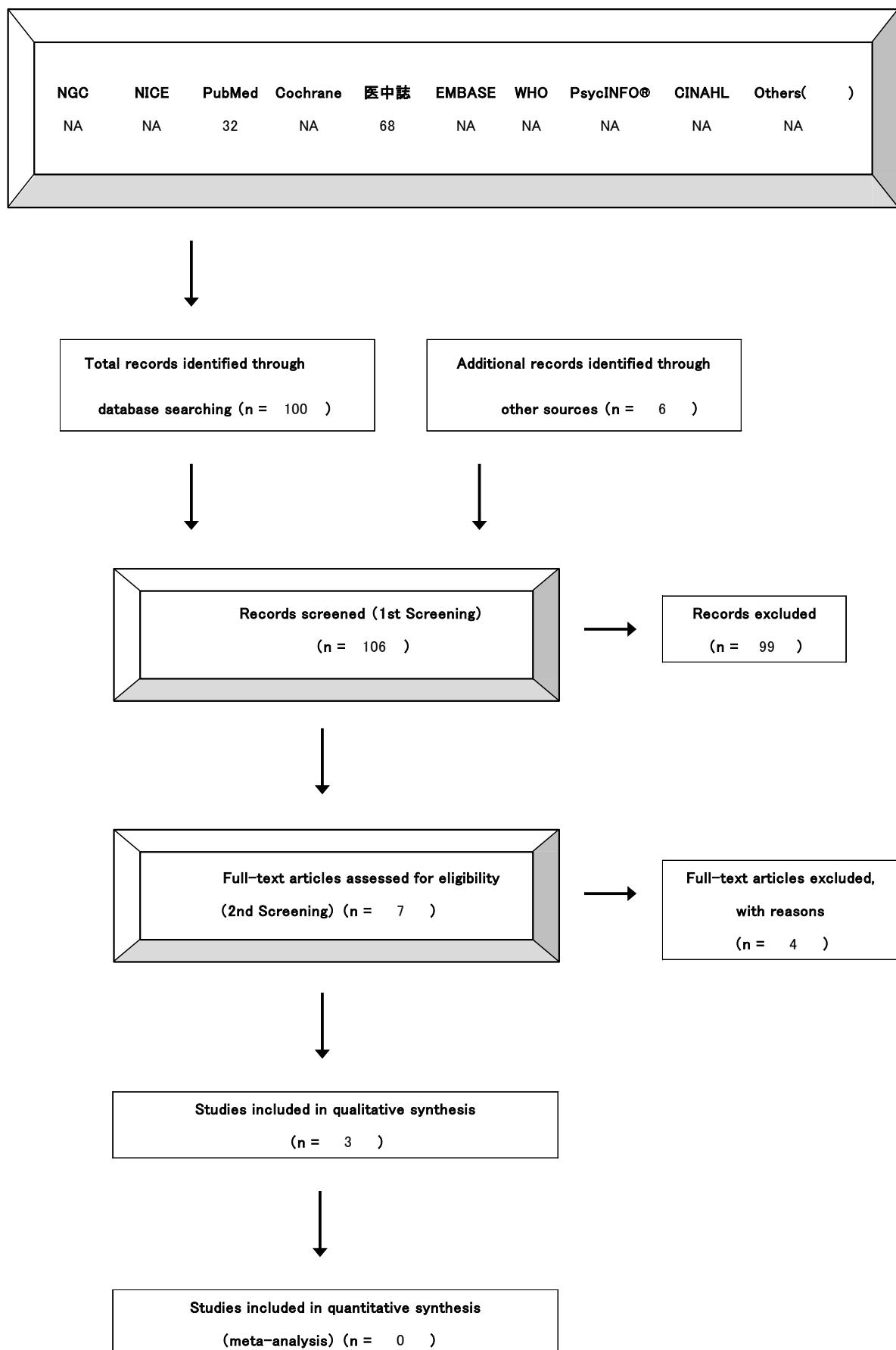
タイトル	ASD
CQ	CQ16 ステロイドパルス療法は ASD に対して有用か
データベース	PubMed
日付	2015/8/10
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	Search "Still's Disease, Adult-Onset"[MH]	1003
#2	Search "Pulse Therapy, Drug"[MH]	1314
#3	Search "Methylprednisolone"[MH]	16823
#4	Search #2 OR #3	174954
#5	Search "2000/01/01"[DP] : "2015/05/31"[DP] AND (English[LA] OR Japanese[LA]) AND humans[MH]	6396129
#6	Search #1 AND #4 AND #5	32

タイトル	ASD
CQ	CQ16 ステロイドパルス療法は ASD に対して有用か
データベース	医中誌
日付	2015/7/29
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	(Still 病-成人/TH or 成人スチル病/AL)	1704
#2	((@Methylprednisolone/TH and @“パルス療法(薬物療法)"/TH) or ステロイドパルス療法/AL)	11536
#3	((@Methylprednisolone/TH and @“パルス療法(薬物療法)"/TH) or メチルプレドニゾロンパルス療法/AL)	7924
#4	#2 or #3	11760
#5	#1 and #4	112
#6	(#5) and (PT=会議録除く CK=ヒト)	77
#7	(#6) and (DT=2000/01/01:2015/05/31)	68

【4-2 文献検索フローチャート】 PRISMA声明を改変



【4-3 二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究 デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
今村秀基 臨床と研究 2013	retrospective	ASD+糖尿病 8 (ASD 27 人中)	ステロイド 少～中等 量 v.s. ステロイド 大量	ステロイド 無	糖尿病発症 (BS、合併 症、HBA1C)		ステロイド使用 の有無、量の差 で糖尿病発症 率に差なし
Masson C. Rev Rhum Engl ed. 1995	retrospective	ASD 65	NSAIDs→ N+PSL 0.2–3.4mg /kg(うち 3 人 mPSL)	NSAIDs only	経過、HLA	✓	AE(骨粗鬆症、 大腿骨頭壊死、 糖尿病、白内 障、クッシング 様症候群、肺結 核、カリニ肺 炎):ただし PSL と mPSL でわけ ておらず 診断基準:なし
Bisagni-Faure A. J Rheumatol. 1992	letter	ASD 3	mPSL 700mg/m ² or 1g/d *3d	high dose CS	remission		mPSL は急性 期の治療に有 効だが、低用量 PSL による後療 法が必要
Pouchot J. medicine(Baltimore) 1991	retrospective	ASD 50	NSAIDs→ N+PSL 10– 100mg/d	NSAIDs only	経過、 response, AIMQ, ARA	✓	mPSL なし 診断:Medsger and Christy
Ohta A. J Rheumatol. 1990	retrospective	ASD 90	NSAIDS→ CS(92%)	NSAIDS only	outcome	✓	mPSL 1 人のみ
Reginato AJ. Semin Arthritis Rheum 1987	retrospective	ASD 23	PSL	NSAIDs only	症状	✓	mPSL なし (PSL の AE とし て菌血症記載 あり、CQ15 へ?)

Hot A. Medicine. 2010	retrospective	ASD+HPS 8	mPSL2– 3mg/kg*3d → PSL1mg/kg	none	improvement	6/8(75%)で improvement
-----------------------------	---------------	--------------	---------------------------------------	------	-------------	--------------------------

【4-4 引用文献リスト】

採用論文	今村秀基. 臨床と研究 90:1550–2, 2013	成人発症 Still 病における糖尿病発症についての検討 3 施設共同研究
	Hot A. Medicine (Baltimore). 89:37–46, 2010	Reactive hemophagocytic syndrome in adult-onset Still disease: clinical features and long-term outcome: a case-control study of 8 patients.
	Bisagni-Faure A. J Rheumatol. 19:1487–8, 1992	Intravenous methylprednisolone pulse therapy in Still's disease.
不採用論文	Masson C. Rev Rhum Engl Ed 62:758–65, 1995	Adult Still's disease. Part II. Management, outcome, and prognostic factors.
	Pouchot J. Medicine (Baltimore) 70:118–36, 1991	Adult Still's disease: manifestations, disease course, and outcome in 62 patients.
	Ohta A. J Rheumatol 17:1058–63, 1990	Adult Still's disease: a multicenter survey of Japanese patients.
	Reginato AJ. Semin Arthritis Rheum 19:39–57, 1987	Adult onset Still's disease: experience in 23 patients and literature review with emphasis on organ failure.
その他の 引用論文		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O1:症状の改善										リスク人数(アウトカム率)												
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**												
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)		
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)		
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-1	NA	NA	NA	3	3	100	
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-1	0	-1	NA	NA	NA	8	6	75	
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

case report																						
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																					

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																					本ア ウトカ ムの 観察 なし						
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------	--	--	--	--	--	--

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ASD CQ16 ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O2:病態の改善										リスク人数(アウトカム率)														
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**														
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)				
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)			
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-1	NA	NA	NA	3	2	66.7	NA	NA	NA
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-1	0	-1	NA	NA	NA	8	6	75	NA	NA	NA
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

case report																							
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																		HLHの改善				

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																			本ア ウトカ ムの 観察 なし
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O3:再発抑制																									
個別研究		バイアスリスク*																									
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	上昇要因**			非直接性*				リスク人數(アウトカム率)												
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-1	NA	NA	NA	3	0	0	NA	NA	NA	
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-1	0	-1	NA	NA	NA	8	6	75	NA	NA	NA	
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

case report																									
後ろ向きコホート研究8人	HCH合併症例にmPSL pulse 2~3mg/kg																				再発患者数				
後ろ向きコホート研究27人	PSL1mg/kg or mPSL pulse 7人																			本アウトカムの観察なし					

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O4:感染症の増加										バイアスリスク*															
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)					
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	症例現象バイアス	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	NA	NA	NA	3	NA	NA	NA	NA	NA
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1	-2	-2	NA	NA	NA	6	NA	NA	NA	NA	NA
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

case report																						本アウトカムの観察なし			
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																					本アウトカムの観察なし			

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																						本アウトカムの観察なし					
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------	--	--	--	--	--

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O5:ステロイド骨粗鬆症																								
個別研究		バイアスリスク*										リスク人数(アウトカム率)														
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	上昇要因**			非直接性*				リスク人数(アウトカム率)											
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	NA	NA	NA	3	NA	NA	NA	NA	NA
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-1	-2	-2	NA	NA	NA	6	NA	NA	NA	NA	NA
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

case report																		本アウトカムの観察なし				
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																	本アウトカムの観察なし				

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																				本ア ウトカ ムの 観察 なし
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O6:高血圧							バイアスリスク*							上昇要因**							非直接性*							リスク人数(アウトカム率)						
個別研究		バイアスリスク*							上昇要因**							非直接性*							リスク人数(アウトカム率)													
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	症例現象バイアス	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間										
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	NA	NA	NA	3	NA	NA	NA	NA	NA	NA									
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-2	-2	NA	NA	NA	6	NA	NA	NA	NA	NA	NA									
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA								

コメント(該当するセルに記入)

case report																															
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																														

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																					本アウトカムの観察なし						
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------	--	--	--	--	--	--

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O7:耐糖能障害												バイアスリスク*															
個別研究		バイアスリスク*												上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)						信頼区間			
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)					
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間			
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	NA	NA	NA	3	NA	NA	NA	NA	NA			
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-1	-2	-2	NA	NA	NA	6	NA	NA	NA	NA	NA	信頼区間		
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-1	-1	0	-1	6	2	33.3	7	3	42.9	NA	NA			

コメント(該当するセルに記入)

case report																									本アウトカムの観察なし			
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																								本アウトカムの観察なし			

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																PSL1 mg/kg >	DM発 症		PSL1 mg/kg or mPSL pulse	DM発 症						steroid非使用では 1/12=8.3%(使用 群とp=0.078)
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------------------	----------	--	--------------------------------------	----------	--	--	--	--	--	--

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス療法
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O9:大腿骨頭壊死																											
個別研究		バイアスリスク*																											
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	上昇要因**	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区间						
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)						
Bisagni-Faure A.1992	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	NA	NA	NA	3	NA	NA	NA	NA	NA		
Hot A.2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1	-2	-2	NA	NA	NA	6	NA	NA	NA	NA	NA		
今村秀基. 2013	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA		

コメント(該当するセルに記入)

case report																												
後ろ向きコホート研究8人	HLH合併例にmPSL pulse 3mg/kg*3d *3course																											

後ろ向きコホート研究 27人	PSL1 mg/kg or mPSL pulse 7人																					本アウトカムの観察なし						
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------	--	--	--	--	--	--

【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	ステロイドパルス療法はASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	ステロイドパルス
対照	副腎皮質ステロイドの連日全身投与

エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート

* 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

** エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階

*** 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

アウトカム	研究 デザイン/ 研究 数	リスク人数(アウトカム率)													効果 指標 統合 値	効果 指標 (種類)	信頼区間	エビデ ンスの 強さ**	重要性 ***	コメント
		バイ アス リスク *	非一 貫性 *	不精 確*	非直 接性 *	その 他の(出 版バ イア スな ど)*	上昇 要因 (観察 研究)*	対照 群分 母	対照 群分 子	(%)	介入 群分 母	介入 群分 子	(%)							
症状の改善	症例 集積 /3	-2	0	-2	-1	0	0	NA	NA	NA	11	9	81.8	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	mPSL量1つは700 mg/kd、1つは2- 3mg/kg、1つは 記載なし	
病態の改善	症例 集積 /3	-2	0	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	11	8	72.7	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	mPSL量1つは700 mg/kd、1つは2- 3mg/kg、1つは 記載なし	
再発抑制	症例 集積 /3	-2	-2	-2	0	0	0	NA	NA	NA	11	6	54.5	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	DMARDsやバイオ の影響を考慮して いない	
感染症の増加	症例 集積 /3	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	11	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	5	本アウトカムの観 察なし	
ステロイド骨粗鬆症	症例 集積 /3	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	11	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	本アウトカムの観 察なし	
高血圧	症例 集積 /3	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	11	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	本アウトカムの観 察なし	
耐糖能異常	症例 集積 /3	-2	-1	-1	-1	0	0	6	2	33.3	7	3	42.9	NA	NA	NA	弱(C)	4	1つの報告で観察 あり、対照と有意差 なし	

大腿骨頭壊死	症例 集積 /3	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	11	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	本アウトカムの観 察なし
--------	----------------	----	----	----	----	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-------------	---	-----------------

コメント(該当するセルに記入)

【4-8 定性的システムティックレビュー】

CQ	16 ステロイドパルス療法は ASD に対して有用か
P	スチル病の発熱、関節症状、全身炎症、臓器障害、マクロファージ活性化症候群。性別・年齢指定なし。
I	ステロイドパルス療法
C	副腎皮質ステロイドの連日全身投与
臨床的文脈	ASD の治療(非生物学的製剤)
O1	症状の改善
非直接性のまとめ	1個の症例集積研究では非直接性は高度、2個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は低度であった。
コメント	ステロイドパルス療法は ASD の症状改善に対し有効である傾向があったが、mPSL の量が「700mg/kg」「2-3mg/kg」「記載なし」とばらつきが大きく、対照との比較もなかった。
O2	病態の改善
非直接性のまとめ	1個の症例集積研究では非直接性は高度、2個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は低度であった。
コメント	ステロイドパルス療法は ASD の症状改善に対し有効である傾向があったが、mPSL の量が「700mg/kg」「2-3mg/kg」「記載なし」とばらつきが大きく、対照との比較もなかった。
O3	再発抑制
非直接性のまとめ	1個の症例集積研究では非直接性は高度、2個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は高度であった。
コメント	DMARDs や生物学的製剤が併用されており、影響について考慮されていない。
O4	感染症の増加

非直接性のまとめ	2 個の症例集積研究では非直接性は高度、1 個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は高度であった。
コメント	本アウトカムの観察なし
O5	ステロイド骨粗鬆症
非直接性のまとめ	2 個の症例集積研究では非直接性は高度、1 個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は高度であった。
コメント	本アウトカムの観察なし
O6	高血圧
非直接性のまとめ	2 個の症例集積研究では非直接性は高度、1 個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	3 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は高度であった。
コメント	本アウトカムの観察なし
O7	耐糖能異常
非直接性のまとめ	1 個の症例集積研究では非直接性は高度、2 個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。
バイアスリスクのまとめ	2 個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1 個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3 個の症例集積研究では非一貫性は中等度であった。
コメント	1 つの症例集積研究で報告あり、対照群である副腎皮質ステロイドの連日全身投与に比し有意に増える傾向はなし(33.3% vs 42.9%)。
O9	大腿骨頭壊死
非直接性のまとめ	2 個の症例集積研究では非直接性は高度、1 個の症例集積研究では非直接性は中等度であった。

バイアスリスクのまとめ	2個の症例集積研究ではバイアスリスクは高度、1個の症例集積研究ではバイアスリスクは中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3個の症例集積研究では非一貫性は高度であった。
コメント	本アウトカムの観察なし

【4-10 SR レポートのまとめ】

3本の症例集積研究を対象にSRを実施した[採用論文1-3]。ASDに対するステロイドパルス療法は症状・病態の改善効果が示唆された(エビデンスの強さ:非常に弱)が、副腎皮質ステロイドの連日全身投与群との直接比較された研究結果はなかった。また、研究によりメチルプレドニンの量が「700 mg/kg」「2-3 mg/kg」「記載なし」とばらつきがみられた。

再発抑制については効果がある傾向にあったが(エビデンス:非常に弱)、DMARDsや生物学的製剤が併用されている症例が多く、その影響について考慮されていなかった。

ステロイドの副作用として1本の症例集積研究で耐糖能異常について調査されていたが、副腎皮質ステロイドの連日全身投与群に比し明らかな有意差は認めなかつた(33.3% vs 42.9%、エビデンス:非常に弱)[採用論文1]。

感染症の増加、ステロイド骨粗鬆症、高血圧、大腿骨頭壊死などその他のステロイドの副作用については、アウトカムとしての記載がないためリスクは不明であった。

以上の結果、エビデンスは弱いが、ステロイドパルス療法はASDの症状・病態を改善する効果が高いことが示唆されたが、副腎皮質ステロイドの連日全身投与群と比較した研究はなかった。

【引用文献リスト】

採用論文	今村秀基. 臨床と研究 90:1550-2, 2013 [1]	成人発症 Still 痘における糖尿病発症についての検討 3 施設共同研究
	Hot A. Medicine (Baltimore). 89:37-46, 2010 [2]	Reactive hemophagocytic syndrome in adult-onset Still disease: clinical features and long-term outcome: a case-control study of 8 patients.
	Bisagni-Faure A. J Rheumatol. 19:1487-8, 1992 [3]	Intravenous methylprednisolone pulse therapy in Still's disease.

ASD CQ17

【4-1 データベース検索結果】

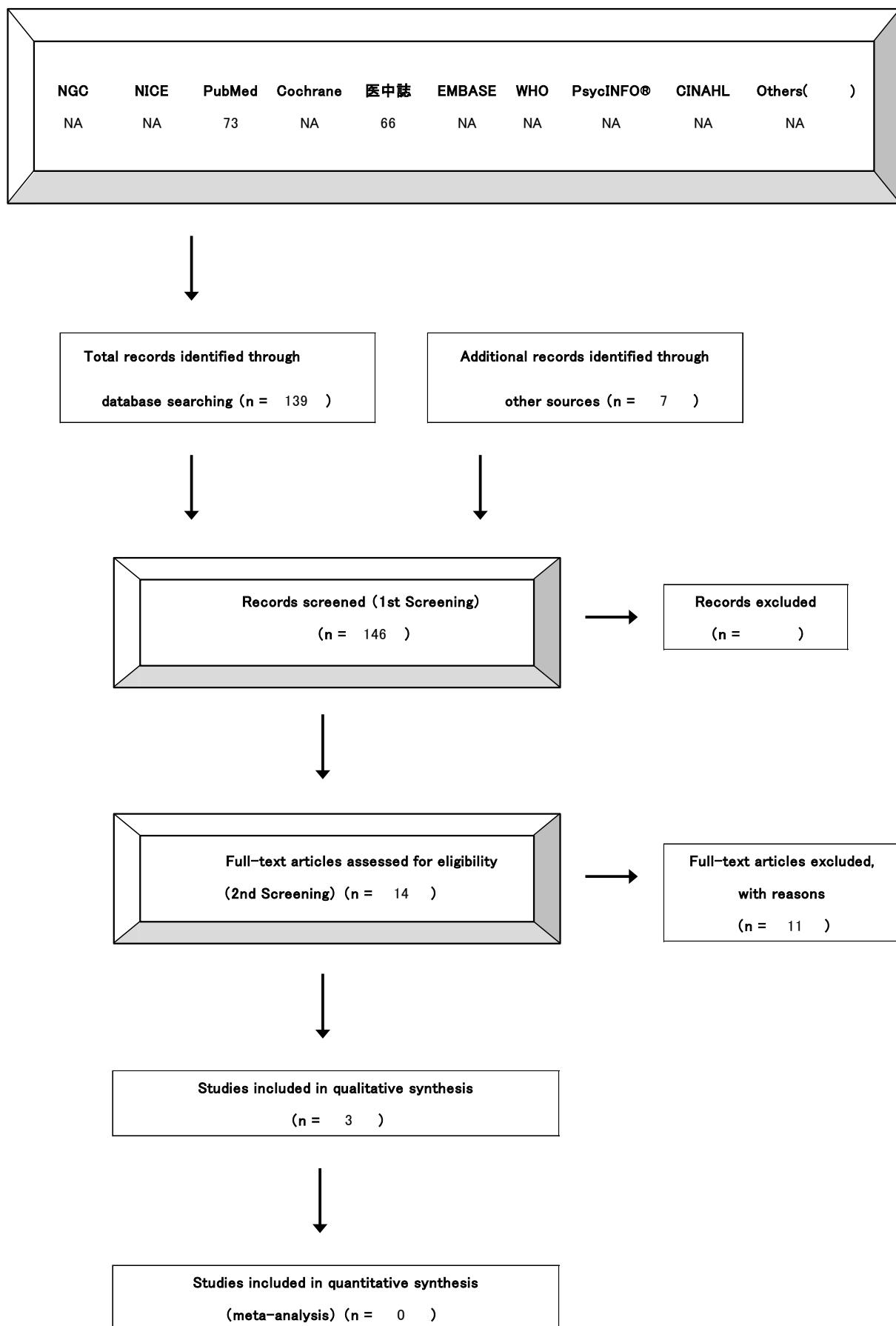
タイトル	ASD
CQ	CQ17 メトレキサートは ASD に対して有用か
データベース	PubMed
日付	2015/8/12
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	Search "Still's Disease, Adult-Onset"[MH]	1003
#2	Search "Methotrexate"[MH] OR "methotrexate"[TIAB]	44915
#3	Search "2000/01/01"[DP] : "2015/05/31"[DP] AND (English[LA] OR Japanese[LA]) AND humans[MH]	6398205
#4	Search #1 AND #2 AND #3	73

タイトル	ASD
CQ	CQ17 メトレキサートは ASD に対して有用か
データベース	医中誌
日付	2015/7/29
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	(Still 病-成人/TH or 成人スチル病/AL)	1704
#2	(Methotrexate/TH or メトレキサート/AL)	15,156
#3	#1 and #2	133
#4	(#3) and (PT=会議録除く CK=ヒト)	73
#5	(#4) and (DT=2000/01/01:2015/05/31)	66

【4-2 文献検索フローチャート】 PRISMA声明を改変



【4-3 二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究 デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
Iliou C. Clin Exp Rheumatol 2013	retrospective	ASD 44	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs	N+CS	response(remission of sys and arti symp)	✓	11人に使用して7人(63.6%)でresponse mPouchot score:5–6 の 50%MTX/CyA 7–8: N+C+D±anakinra 診断基準: Yamaguchi or Fautrel or Cush
Munagala VVR. Int J Rheum Dis. 2012	retrospective chart review	ASD 29	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs	NSIADs only	なし	✓	23人 CS+MTX、1人 MTXのみ。 Outcomeなし。 AE(2人肺炎→菌血症:low dose CS+MTX)
Riera E. Clin Exp Rheumatol 2011	retrospective	ASD 41	N→ N+CS→ N+C+DMARDs → N+C+D+bio	N+CS	response	✓	20人使用で13人(65%)remission AE(-)
Franchini S. Arthritis Rheum 2010	retrospective	ASD 45	N+CS→2M 後改善なし or PSL15mg≤必要のとき MTX (max 25mg)	N+CS	response(remission of sys and arti symp)	✓	22trial 中 16case で response(73%) CADでは DMARDs 群(MTX/CyA)関節破壊進行 38%(v.s. CSのみでは 88%) AE(-)
Singh S. Clin Rheumatol. 2008	retrospective	ASD 14	N→ N+CS→ N+CS+MTX(or DMARDs)	N+CS	improvement	✓	14人中 7人 CS+MTX±HCQ で improvement 他の DMARDs併用

Pay S. Clin Rheumatol. 2006	retrospective	ASD 95	N→ N+CS→ N+CS+MTX or HCQ	N+CS	response	✓	CS+MTX 30/36 で response
Appenzeller S. J Clin Rheumatol 2005	retrospective	ASD 18	N±CS±MTX	none	disease cntl	✓	7人で ctrl(反応 性みてない)。診断 基準が Cush
藤井隆夫 医学のあゆみ 2001	review					✓	review
Fautrel B. J Rheumatology. 1999	retrospective	ASD 26	MTX 7.5 or 10mg/W→2.5m gづつ up(max17.5mg)	CS	clinical remission(impr ovement of 9 clinical features and 8 data)		MTX 11.5± 36.mg/W CR 18 人(69%) , PR 5 人(19%) , failure 3 人(11.5%) AE(ALT ↑, 女性化 乳房、嘔気、水痘、 アミロイドーシス?)
Fujii T. Ann Rheum Dis. 1997	retrospective	ASD 13	MTX 5mg/W→ 改善まで up(max20mg)	CS	remission		8/13(61.5%) remission PSL 減量 AE(嘔気、ALT ↑、 間質性肺炎)
Masson C. Rev Rheum Engl ed. 1995	retrospective	ASD 65	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs	CS	なし	✓	13 人 MTX 使用、 outcome なし
藤井隆夫 医学のあゆみ 1994	retrospective	ASD 8	MTX 5mg/W→ 改善まで up(max20mg)	CS	improvement	✓	Fujii T. Ann Rheum Dis. 1997 の前報
Aydintug AO. J Rheumatology. 1992	retrospective	ASD 6	MTX 7.5mg/W →up(max15mg)	CS	response		3 人 CR、1 人 PR、 反応なし 2 人 AE(口内炎、頭痛、 嘔気) 診断: Yamaguchi 以 外

名西史夫 九州リウマチ 2004	case report	ASD case1	CS+MTX	none	β D グルカン 上昇、CMV アンチゲネミア陽性	✓	感染疑いで確定診断ならず
------------------------	-------------	--------------	--------	------	------------------------------------	---	--------------

【4-4 引用文献リスト】

採用論文	Fautrel B. J Rheumatol 26:373-8, 1999	Corticosteroid sparing effect of low dose methotrexate treatment in adult Still's disease.
	Fujii T. Ann Rheum Dis 56:144-8, 1997	Methotrexate treatment in patients with adult onset Still's disease--retrospective study of 13 Japanese cases.
	Aydintug AO. J Rheumatol. 19:431-5, 1992	Low dose methotrexate treatment in adult Still's disease
不採用論文	Iliou C. Clin Exp Rheumatol 31:47-52, 2013	Adult-onset Still's disease: clinical, serological and therapeutic considerations.
	Reddy Munagala VV. Int J Rheum Dis 15:e136-41, 2012	Adult onset Still's disease: experience from a tertiary care rheumatology unit.
	Riera E. Clin Exp Rheumatol 29:331-6, 2011	Adult onset Still's disease: review of 41 cases.
	Franchini S. Arthritis Rheum 62:2530-5, 2010	Efficacy of traditional and biologic agents in different clinical phenotypes of adult-onset Still's disease.
	Singh S. Clin Rheumatol 27:35-9, 2008	Adult onset Still's disease: a study of 14 cases.
	Pay S. Clin Rheumatol 25:639-44, 2006	A multicenter study of patients with adult-onset Still's disease compared with systemic juvenile idiopathic arthritis.
	Appenzeller S. J Clin Rheumatol 11:76-80, 2005	Adult-onset Still disease in southeast Brazil.
	藤井隆夫. 医学のあゆみ 199:406-410, 2001	【膠原病 診断・治療の進歩】 膠原病各疾患の診断と治療のポイント 成人 Still 病 エビデンスに基づいた診断と治療のポイント
	Masson C. Rev Rheum Engl Ed 62:748-57, 1995	Adult Still's disease. Part II. Management, outcome, and prognostic factors.
	藤井隆夫. 医学のあゆみ 168:698-99, 1994	成人発症スタイル病におけるメトレキサート療法

	名西史夫. 九州リウマチ 24:106-15, 2004	血清フェリチン高値が持続し,副腎皮質ステロイド,メトレキセート併用 中にカリニ肺炎とおもわれる間質性肺炎をきたした成人スチル病の一 例
その他の 引用論文		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O1: 症状の改善										リスク人数(アウトカム率)												
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)		
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分子	対照群分子	(%)	介入群分子	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	-2	-1	-1	NA	NA	6	3	50	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	-2	0	-1	NA	NA	26	18	69	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	-2	0	-1	NA	NA	13	8	62	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群单一 NSAIDs/D MARs併用あり	symp tomeの有無 every 3 mo	調整なし 1例はprobable																		3/6で無症状		
症例集積(26例)	MTX投与群单一 2/26 Gold.I vIG併用	最終受診時でのみ評価	受診毎 調整なし 1例はprobable																		完全寛解(18)、部分(5)、無効(3)		

症例集積 (13例)	MTX 投与 群單 一	前 MTX 治 療、 GC(7), Diclof enac 6	0,8,12, 14,16 w	調整 なし	全例 診断 基準 満																寛解 8/13 、無 効 5/13				
---------------	----------------------	--	-----------------------	----------	---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------------------------	--	--	--	--

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O2: 病態の改善										リスク人数(アウトカム率)												
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*							
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	26	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	+1	+1	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	13	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 併用あり	NSAIDs/D-MARs併用なし every 3 mo	病態マーカーなし 調整なし	1例はprobable												対照なし							
症例集積(26例)	MTX投与群単一 併用	2/26 Gold, VIG併用 最終受診時でのみ評価	受診毎 調整なし	1例はprobable												ESR, WBCのみ評価						ESR, WBC平均値改善	
症例集積(13例)	MTX投与群単一 併用: GC(7), Diclofenac 6	0,8,12,14,16 w	調整なし 全例診断基準満																			同上(経過図あり)	

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O3:再発抑制										バイアスリスク*														
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)				
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	症例現象バイアス	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	NA	NA	NA	6	1	16.7	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	NA	NA	NA	26	22	84.6	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	NA	NA	NA	8	8	100	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 NSAIDs/D MARs併用あり	sympтомの有無 every 3 mo	調整なし 1例はprobable																再発なし 1/6				
症例集積(26例)	MTX投与群単一 2/26 Gold,I vIG併用	再発回数評価なし 受診毎	調整なし 1例はprobable																再発なし 22/26				
症例集積(13例)	MTX投与群単一 7/16はGCなし (Diclo) 14,16w	再発の定義なし 0,8,12,14,16w	調整なし 全例診断基準満																有効例に再発の記載なし				

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O4:副腎皮質ステロイドの減量																								
個別研究		バイアスリスク*																								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-1	NA	NA	NA	6	5	83.3	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	+1	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	26	11	42.3	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	7	3	42.9	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群单一 併用あり	NSAIDs/D MARs併用	symptom の有無 every 3 mo	調整なし	1例はprobable												対照がな いので評 価不 能						併用前後 で有意 差あり		
症例集積(26例)	MTX投与群单一 併用	2/26 Gold,I vIG併用	最終受診時でのみ評価	最終受診時との比較	調整なし	1例はprobable				GC中止 11/26、投 与量著減						同上							同上		
症例集積(13例)	MTX投与群单一	併用: GC(7), Diclofenac 6	0,8,12, 14,16 w	調整なし	全例 診断基準 満																	GC 3/7で 減量			

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映せる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O5: 感染症の増加										バイアスリスク*																
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)						
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間		
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 併用あり	NSAIDs/Ds/D MARs併用	symptomeの有無 every 3 mo	調整なし	1例はprobable							評価項目ない									感染症データなし			
症例集積(26例)	MTX投与群単一 併用	2/26 Gold, vIG併用	重症感染のみ記載	受診毎	調整なし	1例はprobable										記載のみ					記載のみ			
症例集積(13例)	MTX投与群単一 併用: GC(7), Diclofenac 6	0,8,12,14,16 w	調整なし	全例診断基準満																	感染症データなし			

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O6: 血球減少										バイアスリスク*														
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)				
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	6	0	0	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	26	0	0	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	13	0	0	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 NSAIDs/D MARs併用あり	個々の数値評価なし every 3 mo	調整なし 1例はprobable																			
症例集積(26例)	MTX投与群単一 2/26 Gold, vIG併用	最終評価時のみ評価 受診毎	調整なし 1例はprobable																			
症例集積(13例)	MTX投与群単一 併用: GC(7), Diclofenac 6	0,8,12,14,16 w	調整なし 全例診断基準満																			

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	ASD CQ17 メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O7: 肝障害の悪化										リスク人数(アウトカム率)															
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)					
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	6	0	0	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	26	1	3.8	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	13	2	15.4	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 併用あり	NSAIDs/D MARs併用	every 3 mo	調整なし	1例はprobable																記述のみ			
症例集積(26例)	MTX投与群単一 併用	2/26 Gold, IgG併用	数値記載なし	受診毎	調整なし	1例はprobable															記述のみ			
症例集積(13例)	MTX投与群単一 併用: GC(7), Diclofenac 6	併用: GC(7), Diclofenac 6	0,8,12,14,16 w	調整なし	全例診断基準満																記載のみ			

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O8:消化管障害											バイアスリスク*													
個別研究		バイアスリスク*											上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)							
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間	
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	6	3	50	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	13	2	15.4	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群单一 NSAIDs/D MARs併用あり	symptomの有無 every 3 mo	調整なし 1例はprobable																			記述のみ		
症例集積(26例)	MTX投与群单一 2/26 Gold, VIG併用	最終受診時でのみ評価	受診毎 調整なし 1例はprobable																			MTX中止例の記述のみ		
症例集積(13例)	MTX投与群单一 併用: GC(7), Diclofenac 6	0.8,12,14,16w	調整なし 全例診断基準満																			記述のみ		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映せる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O9:薬剤性間質性肺炎																										
個別研究		バイアスリスク*																										
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	上昇要因**	非直接性*	リスク人数(アウトカム率)																		
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローワーアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間		
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	13	1	7.7	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 Ds/D MARs併用あり	NSAIDs/D symptome の有無 every 3 mo	調整なし	1例はprobable															記載なし				
症例集積(26例)	MTX投与群単一 Gold, IgG併用	2/26 記載なし	受診毎	調整なし	1例はprobable														記載なし				
症例集積(13例)	MTX投与群単一 GC(7), Diclofenac(6)不応例	GC(7), Diclofenac(6) 不応例	0,8,12, 14,16 w	調整なし	全例診断基準満																		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O10:薬剤の継続的服用(継続率)																									
個別研究		バイアスリスク*						上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)													
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間		
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローリングアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ																			
Aydintug AO.1992	症例集積	-2	-2	-2	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	6	4	66.7	NA	NA	NA
Fautrel B. 1999	症例集積	-2	-2	0	0	-2	-1	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Fujii T. 1997	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-1	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	13	11	84.6	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例集積(6例)	MTX投与群単一 併用あり	NSAIDs/D MARs併用	symptomeの有無 every 3 mo	調整なし	1例はprobable																	1年以上継続			
症例集積(26例)	MTX投与群単一 併用	2/26 Gold,I vIG併用	評価なし 受診毎	調整なし	1例はprobable																				
症例集積(13例)	MTX投与群単一 併用:GC(7), Diclofenac 6	併用:GC(7), Diclofenac 6	0,8,12,14,16 w	調整なし	全例診断基準満																2例中止				

【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	メトレキサートはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	メトレキサート併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
 * 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
 ** エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階
 *** 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

エビデンス総体											リスク人数(アウトカム率)								
アウトカム	研究デザイン/ 研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精确*	非直接性*	その他(出版バイアスなど)*	上昇要因(観察研究)*	対照群分母		(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
								対照群分子	(%)										
症状の改善	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	45	29	64.4	NA	NA	NA	非常に弱(D)	7	GC不応例で有効
病態の改善	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	39	NA	NA	NA	NA	NA	非常に弱(D)	7	平均値で改善(WBC、CRP、赤沈)
再発抑制	症例集積/3	-2	-1	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	40	31	77.5	NA	NA	NA	非常に弱(D)	7	報告で異なる、対照なし
副腎皮質ステロイドの減量	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	39	19	48.7	NA	NA	NA	非常に弱(D)	7	すべての報告で減量効果ありと結論
感染症の増加	症例集積/3	-2	-1	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	非常に弱(D)	6	対照群ないため評価不能
血球減少	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	45	0	0	NA	NA	NA	非常に弱(D)	5	報告なし
肝障害の悪化	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	45	3	6.7	NA	NA	NA	非常に弱(D)	5	対照群なし
消化管障害	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	19	5	26.3	NA	NA	NA	非常に弱(D)	4	全ての報告で症例あり

薬剤性間質性肺炎	症例 集積 /3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	13	1	7.7	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	5	
薬剤の継続的服用(継 続率)	症例 集積 /3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	19	15	89.5	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	4	

コメント(該当するセルに記入)

【4-8 定性的システムティックレビュー】

CQ	17	メトレキサートは ASD に対して有用か
P		スチル病の発熱、関節症状、全身炎症、臓器障害、マクロファージ活性化症候群。性別・年齢指定なし。
I		メトレキサート併用
C		副腎皮質ステロイドの単独投与
臨床的文脈		ASD の治療(非生物学的製剤)
O1		症状の改善
非直接性のまとめ		3 本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ		2 本の症例集積研究で高度、1 個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ		3 本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント		3 本の報告では、いずれも MTX 併用は症状改善に有効としたが、MTX 非併用群(対照群)との比較がなされていない。
O2		病態の改善
非直接性のまとめ		3 本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ		2 本の症例集積研究で高度、1 個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ		3 本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント		3 個の報告で、MTX 併用で WBC、CRP、ESR の平均値が改善したと報告したが、MTX 非併用群(対照群)との比較がなされていない。
O3		再発抑制
非直接性のまとめ		3 個の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ		2 個の症例集積研究で高度、1 個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ		2 個の症例集積研究で低度、1 個の症例集積研究で中等度であった。
コメント		3 本の症例集積研究で、31/40 で再発がなかったが、MTX 非併用群(対照群)との比較がなされていない。
O4		副腎皮質ステロイドの減量
非直接性のまとめ		3 本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ		2 本の症例集積研究で高度、1 個の症例集積研究で中等度であった。

非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	3本の症例集積研究のいずれも、ステロイド減量効果ありと結論していた。
O5	感染症の増加
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	1本の症例集積研究で感染症の記述はあるが、対照群がないため評価できない
O6	血球減少
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	3本の症例集積研究のいずれにも報告なし。
O7	肝障害の悪化
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	いずれの研究でも一定比率の肝障害が報告されているが、対照群がなく評価不能
O8	消化管障害
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	いずれの研究でも一定比率で報告されているが、対照群がなく評価不能
O9	薬剤性間質性肺炎
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。

非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	1本の症例集積研究で1例の報告があり、RAと同様な注意が必要と記載。
O10	薬剤の継続的服用(継続率)
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究ではいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	2本の症例集積研究で高度、1個の症例集積研究で中等度であった。
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれでも低度であった。
コメント	継続率は良好(89%)だが、評価時の投与期間が報告によりさまざま。

【4-10 SR レポートのまとめ】

3本の症例集積研究[採用論文 1-3]を対象に、MTX併用がステロイド単独投与より有用かについて、SRを実施した。

いずれの研究も、ステロイドに不応で活動性のある症例が対象であり、MTX併用によりその症状・病態は50~70%で寛解していた。また、いずれの報告でもステロイド減量効果が報告されたが、再発抑制については不明であった。安全性については、消化器症状、肝障害が一定の比率で、また薬剤性間質性肺炎が1例で報告され、関節リウマチ RAと同様な注意が喚起されていた[採用論文 2]。感染症の増加、肝障害の悪化については評価不能であった。いずれも対照群が設定されておらず、エビデンスレベルは低かった(D)

以上の結果から、十分なエビデンスはないものの、MTX併用は難治性 ASD の病態・症状改善やステロイド減量を目的に試みても良いことが示唆された。一方、その安全性については RA 同様の注意が必要であることが示唆された。

【引用文献リスト】

採用論文	Fautrel B. J Rheumatol 26:373-8, 1999 [1]	Corticosteroid sparing effect of low dose methotrexate treatment in adult Still's disease.
	Fujii T. Ann Rheum Dis 56:144-8, 1997 [2]	Methotrexate treatment in patients with adult onset Still's disease--retrospective study of 13 Japanese cases.
	Aydintug AO. J Rheumatol. 19:431-5, 1992 [3]	Low dose methotrexate treatment in adult Still's disease

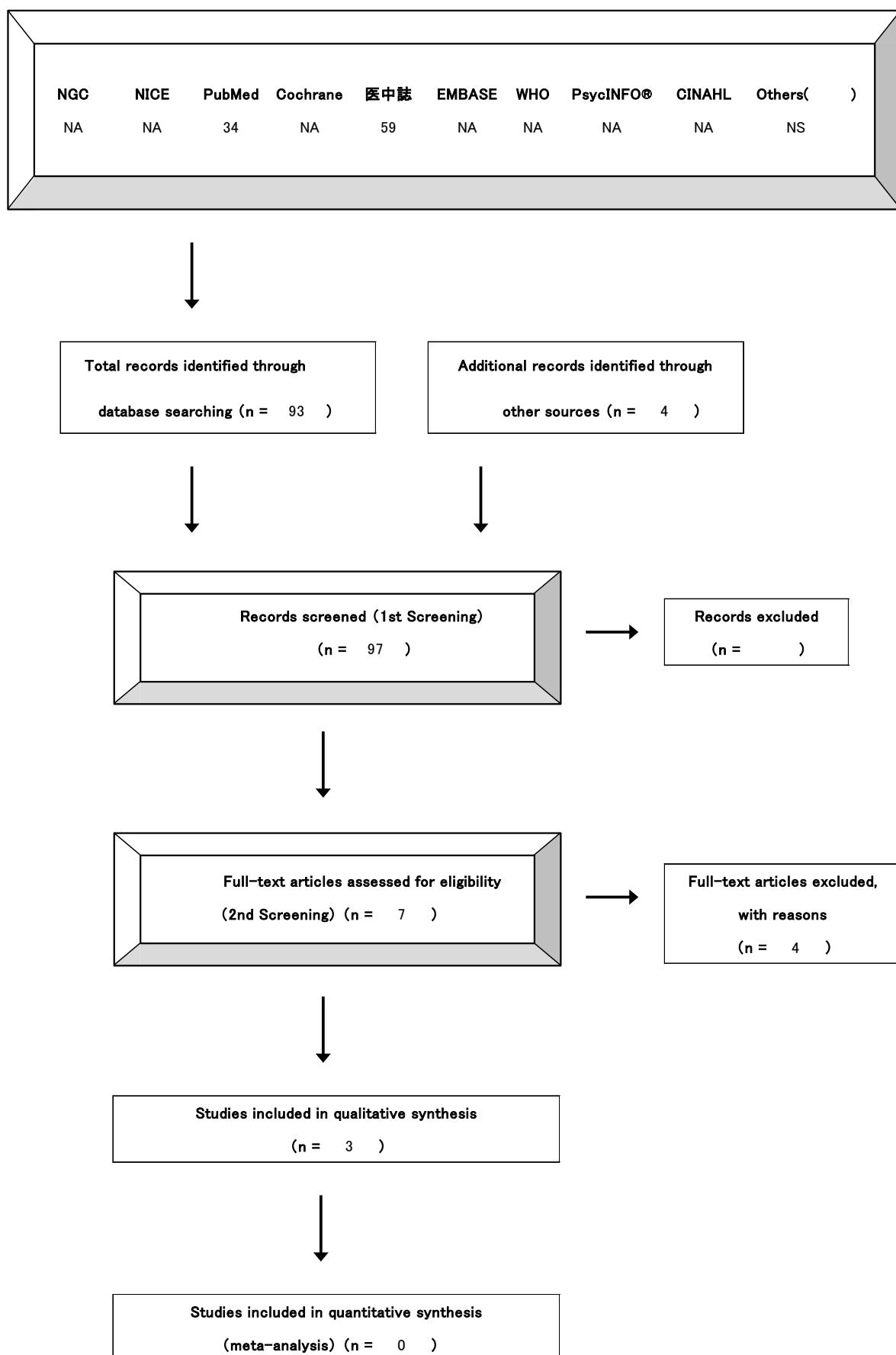
ASD CQ18

タイトル	ASD	
CQ	CQ18 シクロスボリンは ASD に対して有用か	
データベース	PubMed	
日付	2015/8/11	
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)	
#	検索式	文献数
#1	Search ""Still's Disease, Adult-Onset""[MH]	1003
#2	Search ""Cyclosporine""[MH] OR ""Cyclosporine""[TIAB]	40887
#3	Search ""2000/01/01""[DP] : ""2015/05/31""[DP] AND (English[LA] OR Japanese[LA]) AND humans[MH]	6396129
#4	Search #1 AND #2 AND #3	34

タイトル	ASD
CQ	CQ18 シクロスボリンは ASD に対して有用か
データベース	医中誌
日付	2015/7/29
検索者	天井(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	(Still 病-成人/TH or 成人スチル病/AL)	1704
#2	(Ciclosporin/TH or シクロスボリン/AL or サイクロスボリン/AL)	16312
#3	#1 and #2	120
#4	(#3) and (PT=会議録除く CK=ヒト)	63
#5	(#4) and (DT=2000/01/01:2015/05/31)	59

【4-2 文献検索フローチャート】PRISMA声明を改変



【4-3 二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究 デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
林高広 日本腎臓病薬物療法学会誌	case report	ASD 1 case	PSL18mg +CyA140 mg+IVCY C800mg/回*4 回	なし	β D グルカン陽性、アスペルギルス抗原陽性 AMPH-B 併用で腎障害	✓	CyA+AMPH-B 併用により腎毒性増強した可能性あり CyA 単独の反応ではない
Franchini S. Arthritis Rheum 2010	retrospective	ASD 45	N+CS→ 2M 後改善なし or PSL15mg ≤必要なとき DMARD(CyA 含む)	CS	response		12trial で 9case (75%) response CAD では DMARDS 群 (MTX/CyA) 関節破壊進行 38% (v.s. CS のみでは 88%) AE(-)
Hot A. Medicine(Baltimore) 2010	retrospective	ASD+HPS 8	CS+IVIG +DMARDs (MTX/CyA/CPA)	none	response	✓	CyA 使用は 1 人のみ、outcome 評価なし
Kobak S. Clin Rheumatol 2010	case report	ASD 1 case	PSL18mg +CyA3mg /kg+NSAIDs	none	tumor swelling	✓	generalized fibrosis(CyA 中止後改善) outcome に評価項目なし
Mitamura M. Mod Rheumatol 2009	retrospective	ASD 34(うち CyA 使用 7)	CS 無効・依存に DMARDs (MTX/CyA/CPA/MZB) CyA 125–200mg/d(rough 34–168ng/ml)	CS	remission		6/7(86%) remission 6/7(86%) で再発抑制 AE(ALT 上昇、ノカルジア)

Tada Y. Am J med Sci. 2008	case report	ASD 2 case	① PSL+IVCY C 無効→ CyA(trough 100– 150ng/ml) ②PSLで BS 高値 → CyA100m g/d	none	fever, high CRP, abnormal lesion on chest(①②), brain(①)		ノカルジア 2 人
Singh S. Clin Rheumatol. 2008	retrospective	ASD 14	N+CS→ MTX or DMARD(CyA 含む)	CS	remission	✓	NSAIDS 無効の 2 人で cyA response, CS+ MTX+HCQ 無効 3 人で CyA response case report

【4-4 引用文献リスト】

採用論文	Franchini S. Arthritis Rheum 62:2530–5, 2010	Efficacy of traditional and biologic agents in different clinical phenotypes of adult-onset Still's disease.
	Mitamura M. Mod Rheumatol 19:57–63, 1997	Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease.
	Tada Y Am J Med Sci 336:77–80, 1992	Nocardiosis in adult-onset Still's disease and vasculitis syndrome.
不採用論文	林高広. 日本腎臓病薬物療法 学会誌 2:17–21, 2013	シクロスルホン投与中の成人 Still 病患者に対してリポソーマルアムホテリシン B 併用により腎機能障害をきたした 1 症例
	Hot A. Medicine(Baltimore) 89:37–46, 2010	Reactive hemophagocytic syndrome in adult-onset Still disease: clinical features and long-term outcome: a case-control study of 8 patients.
	Kobak S. Clin Rheumatol 29:205–8, 2010	Cyclosporine A-induced neck fibrosis in a patient with adult-onset Still's disease.
	Singh S. Clin Rheumatol. 27:35–9, 2008	Adult onset Still's disease: a study of 14 cases.
その他の引用論文		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
**上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O1:症状の改善										リスク人數(アウトカム率)														
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**														
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間		
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-1	-2	NA	NA	NA	12	9	75	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	7	6	85.7	NA	NA	NA
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	2	2	100	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1pont 評価																					
症例(7例)	CS+C sAのみ														Ferrut inm7/ 7wbc 6/7						1/7im prove ment	Remis sion	
Nocardiosis の2例報告	CS+C sAのみ																				2例と も解 熱		

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
**上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O2:病態の改善										バイアスリスク*																													
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**										非直接性*										リスク人数(アウトカム率)									
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間															
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA							
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	7	6	85.7	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA		
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	2	2	100	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1pont 評価																					
症例(7例)	CS+C sAのみ															Ferrut inm7/ 7wbc 6/7					1/7im prove ment	Remis sion	
Nocardiosis の2例報告	CS+C sAのみ																						

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O3:再発抑制										リスク人数(アウトカム率)											
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**											
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	7	6	85.7	NA
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point 評価																					評価なし
症例(7例)	CS+C sAのみ																						
Nocardiosis の2例報告	CS+C sAのみ																						

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O4:病副腎皮質ステロイドの減量																							
個別研究		バイアスリスク*						上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)											
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他バイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ																	
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-1	-1	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-1	0	0	0	NA	NA	NA	7	NA	NA	NA	NA
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	2	2	100	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point 評価																						
症例(7例)	CS+C sAのみ																							
Nocardiosis の2例報告	CS+C sAのみ																							

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O5:感染症の増加							バイアスリスク*							リスク人数(アウトカム率)										
個別研究		バイアスリスク*							上昇要因**			非直接性*				リスク人数(アウトカム率)										
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローワーアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	7	2	28.6	NA	NA	NA
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point 評価																					
症例(7例)	CS+C sAのみ																						対照なし
Nocardiosis の2例報告	CS+C sAのみ																						

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
**上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O6:腎障害の悪化											バイアスリスク*												
個別研究		バイアスリスク*											上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)						
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分子	対照群分子	(%)	介入群分子	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1pont 評価																						
症例(7例)	CS+C sAのみ																							評価項目外
Nocardiosisの2例報告	CS+C sAのみ																							

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O7:消化管障害							バイアスリスク*							リスク人数(アウトカム率)										
個別研究		バイアスリスク*							上昇要因**			非直接性*				リスク人数(アウトカム率)										
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローリングアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point 評価																					
症例(7例)	CS+C sAのみ																						記載なし
Nocardiosis の2報告	CS+C sAのみ																						

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O8:薬剤アレルギー										バイアスリスク*														
個別研究		バイアスリスク*										上昇要因**					非直接性*					リスク人数(アウトカム率)				
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point評価																						
症例(7例)	CS+C sAのみ																							記載なし
Nocardiosisの2例報告	CS+C sAのみ																							

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

*バイアスリスク、非直接性
各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる
** 上昇要因
各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階
まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映せる
各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O9:薬剤の継続的服用(継続率)																								
個別研究		バイアスリスク*																								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	上昇要因**				非直接性*				リスク人数(アウトカム率)											
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Franchini S. 2010	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-2	0	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Tada Y. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

症例(12例)	CsA単独 7,+MT X4,+AZA1	1point評価																							アウトカム評価なし
症例(7例)	CS+C sAのみ																								アウトカム評価なし
Nocardiosisの2例報告	CS+C sAのみ																								アウトカム評価なし

【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	シクロスボリンはASDに対して有用か
対象	ASDの症状、病態
介入	シクロスボリン併用
対照	副腎皮質ステロイドの単独投与

エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
 * 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
 ** エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階
 *** 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

アウトカム	研究デザイン/ 研究数	バイアスリスク*	リスク人数(アウトカム率)										効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
			上昇要因 (観察研究)*	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標 (種類)							
症状の改善	症例集積/3	-2	0	-1	-2	0	0	NA	NA	NA	21	17	81	NA	NA	NA	6
病態の改善	症例集積	-2	0	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	9	8	89	NA	NA	NA	6
再発抑制	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	7	6	86	NA	NA	NA	5
ステロイドの減量	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	5
感染症の増加	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	4
腎障害の悪化	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	4
消化管障害	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	4
薬剤アレルギー	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	4
薬剤の継続的服用(継続率)	症例集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	4

コメント(該当するセルに記入)

【4-8 定性的システムティックレビュー】

CQ	18	シクロスボリンは ASD に対して有用か
P	スチル病の発熱、関節症状、全身炎症、臓器障害、マクロファージ活性化症候群。性別・年齢指定なし。	
I	シクロスボリン併用	
C	副腎皮質ステロイドの単独投与	
臨床的文脈	ASD の治療(非生物学的製剤)	
O1	症状の改善	
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
非一貫性その他のまとめ	低度であり、同様な成績が報告されていた。	
コメント	対照群がないが、3本の報告で 81～89% が症状寛解。	
O2	病態の改善	
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。	
O3	再発抑制	
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。	
O4	ステロイドの減量	
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。	
O5	感染症の増加	
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度	

バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。
O6	腎障害の悪化
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。
O7	消化管障害
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。
O8	薬剤アレルギー
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。
O9	薬剤の継続的服用(継続率)
非直接性のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
バイアスリスクのまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
非一貫性その他のまとめ	3本の症例集積研究のいずれも高度
コメント	3本の症例集積研究のいずれも評価なし。

【4-10 SR レポートのまとめ】

症例集積研究3本[採用論文 1-3]を対象に、SRを行った。

いずれの研究でも、高用量ステロイドに不応な ASD 症例の 81~89%に症状の改善が認められた[採用論文 1-3]。しかしこれを裏付ける病態や、関連する再発抑止やステロイド減量に対する評価はなされていなかった。安全性については、腎障害、消化管障害の記載はなく、その継続率についての検討はなかった。また、いずれもステロイド単独群と比較しておらず、エビデンスレベルは低かった(D)。

以上から、エビデンスは低いものの、シクロスボリンの併用は、治療抵抗性 ASD の症状改善を改善させる可能性があるが、その安全性に関しては不明である。

【引用文献リスト】

採用論文	Franchini S. Arthritis Rheum 62:2530-5, 2010 [1]	Efficacy of traditional and biologic agents in different clinical phenotypes of adult-onset Still's disease.
	Mitamura M. Mod Rheumatol 19:57-63, 1997 [2]	Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease.
	Tada Y Am J Med Sci 336:77-80, 1992 [3]	Nocardiosis in adult-onset Still's disease and vasculitis syndrome.

ASD CQ19

【SR-1 データベース検索結果】		
タイトル：		
CQ：ステロイド抵抗性 ASD に対して、メトトレキサートとシクロスボリンのどちらが有用か		
データベース：医中誌		
日付：2021/1/7		
検索者：河野正憲/木原まり		
#	検索式	文献数
1	Still 病-成人/TH or aosd/AL or 成人スティル病/AL or 成人発症スティル病/AL or 成人発症スチル病/AL or 成人スチル病/AL or 成人 Still 痘/AL or 成人発症 Still 痘/AL or "adult onset Still disease"/AL or "adult onset Still's disease"/AL or "adult-onset Still disease"/AL or "adult still disease"/AL or "adult still's disease"/AL or "ASD"/AL	7562
2	副腎皮質ホルモン/TH or 副腎皮質ホルモン/AL or glucocorticoid/AL or グルココルチコイド/AL or betamethasone/AL or ベタメタゾン/AL or Dexamethasone/AL or デキサメタゾン/AL or Prednisolone/AL or プレドニゾロン/AL or Prednisone/AL or プレドニゾン/AL or hydrocortisone/AL or ヒドロコルチゾン/AL or corticosteroid/AL or コルチコステロイド/AL or hydroxycorticosteroid/AL or ヒドロキシコルチコステロイド/AL or methylprednisolone/AL or メチルプレドニゾロン/AL or steroid/AL or ステロイド/AL	263009
3	Methotrexate/TH or methotrexate/AL or メトトレキサート/AL or メトトレキセート/AL or メソトレキサート/AL or メソトレキセート/AL	22205
4	Ciclosporin/TH or cyclosporin/AL or cyclosporine/AL or シクロスボリン/AL or サイクロスボリン/AL	19767
5	#1 and #2 and (#3 or #4)	261
6	(#5) and (PT=症例報告・事例除く and (CK=ヒト) and (CK=成人(19~44), 中年(45~64), 高齢者(65~)) and PDAT=2000/1/1://)	14

【SR-1 データベース検索結果】		
タイトル：		
CQ：ステロイド抵抗性 ASD に対して、メトトレキサートとシクロスボリンのどちらが有用か		
データベース：PubMed		
日付：2021/1/7		
検索者：河野正憲/木原まり		

#	検索式	文献数
1	"adult onset still's disease*"[Title/Abstract] OR "adult still's disease*"[Title/Abstract] OR "adult onset still disease*"[Title/Abstract] OR "adult still disease*"[Title/Abstract] OR "adult still's disease*"[Title/Abstract] OR "adult-onset still disease*"[Title/Abstract] OR "AOSD"[Title/Abstract] OR "ASD"[Title/Abstract]	27160
2	"still's disease, adult onset"[MH]	1386
3	"Prednisone*"[Title/Abstract] OR "prednisolone*"[Title/Abstract] OR "glucocorticoid*"[Title/Abstract] OR "hydroxycorticosteroid*"[Title/Abstract] OR "methylprednisolone*"[Title/Abstract] OR "corticosteroid*"[Title/Abstract] OR "steroid*"[Title/Abstract] OR "hydrocortisone*"[Title/Abstract] OR "betamethasone*"[Title/Abstract] OR "dexamethasone*"[Title/Abstract]	483469
4	Adrenal Cortex Hormones[MH] OR Prednisolone[MH] OR Prednisone[MH] OR Hydrocortisone[MH] OR Betamethasone[MH] OR Dexamethasone[MH]	391064
5	cyclosporin*[Title/Abstract] OR Cyclosporine[MH]	58628
6	methotrexate*[Title/Abstract] OR Methotrexate[MH]	55294
7	("2000/1/1"[Date - Publication] : "3000"[Date - Publication])	18470984
8	(#1 OR #2) AND (#3 OR #4) AND (#5 OR #6) AND #7	190

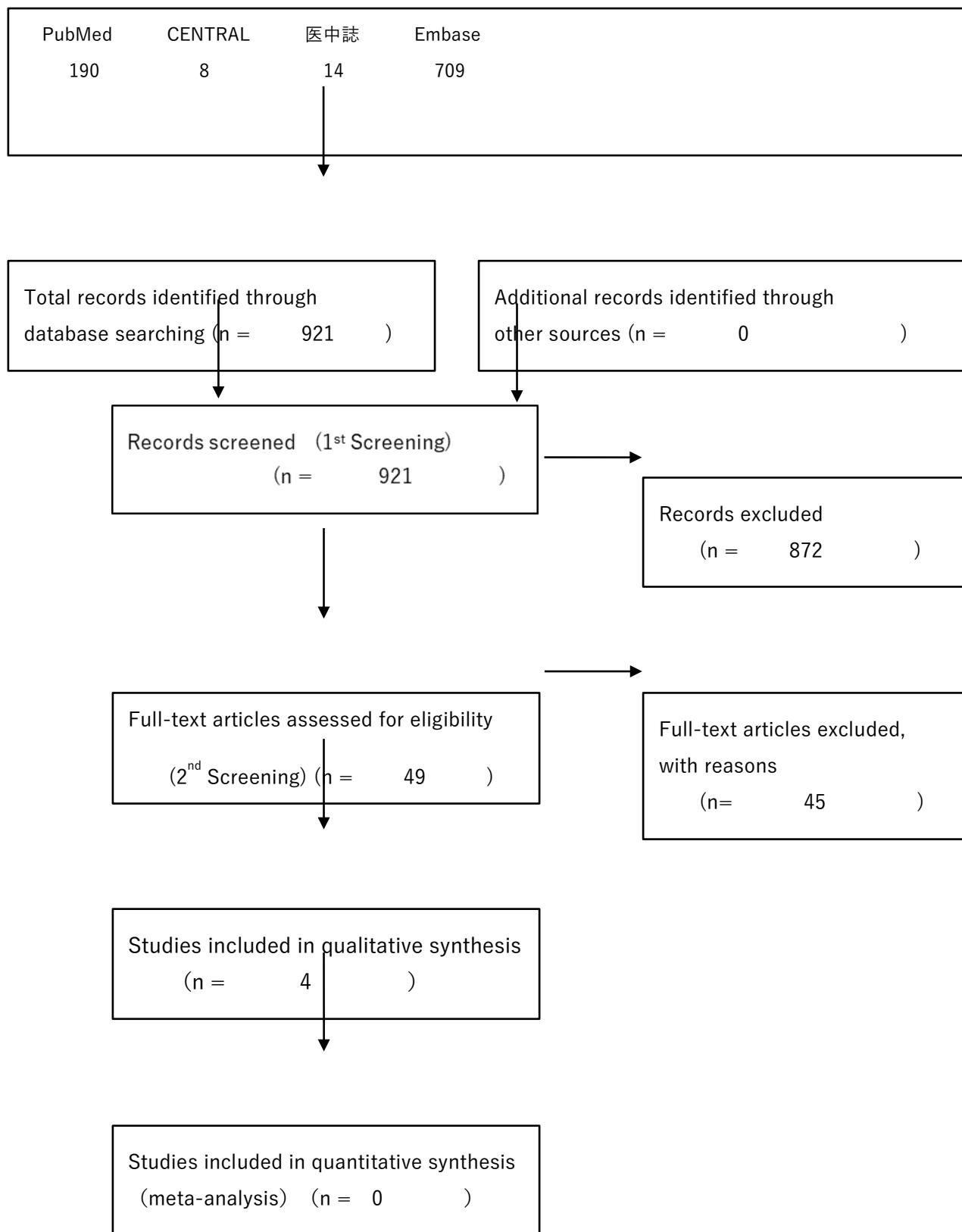
【SR-1 データベース検索結果】		
#	検索式	文献数
1	("AOSD" OR "ASD"):ti,ab,kw OR ("adult onset Still disease*"):ti,ab,kw OR ("adult onset Still's disease*"):ti,ab,kw OR ("adult-onset Still disease*"):ti,ab,kw OR ("adult still disease*" OR "adult still's disease*"):ti,ab,kw	2172
2	MeSH descriptor: [Still's Disease, Adult-Onset] explode all trees	8
3	(prednisone or prednisolone or glucocorticoid* or hydroxycorticosteroid* or methylprednisolone* or corticosteroid* or steroid* or hydrocortisone* or betamethasone* or dexamethasone*):ti,ab,kw	81137

4	MeSH descriptor: [Adrenal Cortex Hormones] explode all trees	14453
5	MeSH descriptor: [Prednisolone] explode all trees	4913
6	MeSH descriptor: [Prednisone] explode all trees	4001
7	MeSH descriptor: [Hydrocortisone] explode all trees	6013
8	MeSH descriptor: [Betamethasone] explode all trees	1458
9	MeSH descriptor: [Dexamethasone] explode all trees	4602
10	MeSH descriptor: [Cyclosporins] explode all trees	3173
11	(cyclosporin*):ti,ab,kw	7205
12	(methotrexate*):ti,ab,kw	11506
13	MeSH descriptor: [Methotrexate] explode all trees	4167
14	(#1 OR #2) AND (#3 OR #4 OR #5 OR #6 OR #7 OR #8 OR #9) AND ((#10 OR #11) OR (#12 OR #13)) with Publication Year from 2000 to present, with Cochrane Library publication date from Jan 2000 to present, in Trials	8

【SR-1 データベース検索結果】		
タイトル :		
CQ : ステロイド抵抗性 ASD に対して、メトトレキサートとシクロスルホンのどちらが有用か		
データベース : PubMed		
日付 : 2021/1/13		
検索者 : 河野正憲/木原まり		
#	検索式	文献数
1	adult onset still* disease*:ti,ab,kw OR 'adult still* disease*':ti,ab,kw OR 'adult-onset still* disease*':ti,ab,kw OR aasd:ti,ab,kw OR asd:ti,ab,kw OR 'adult onset still disease'/exp OR 'adult onset still disease' OR 'adult-onset still` s disease':ti,ab,kw OR 'still` s disease, adult-onset':ti,ab,kw	39100
2	glucocorticoid'/exp OR 'glucocorticoid' OR 'betamethasone'/exp OR 'betamethasone' OR 'corticosteroid'/exp OR 'corticosteroid' OR 'dexamethasone'/exp OR 'dexamethasone' OR 'prednisolone'/exp OR 'prednisolone' OR 'prednisone'/exp OR 'prednisone' OR 'hydrocortisone'/exp OR 'hydrocortisone' OR 'hydroxycorticosteroid'/exp OR 'hydroxycorticosteroid' OR 'methylprednisolone'/exp OR 'methylprednisolone' OR '(predniso* or glucocorticoid* or corticosteroid* or steroid* or hydroxycorticosteroid* or methylprednisolone* or hydrocortisone* or betamethasone* or dexamethasone*):ti,ab,kw	1073442
3	cyclosporine'/exp OR cyclosporin*:ti,ab,kw	161092

4	methotrexate'/exp OR methotrexate*:ti,ab,kw	189499
5	#3 OR #4	319871
6	#1 AND #2 AND #5	737
7	#6 AND [2000-2021]/py	709

【SR-2 文献検索フローチャート】



【SR-3 二次スクリーニング後の一覧表】							
文献	研究デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
Adult onset Still's disease: review of 41 cases. Clin Exp Rheumatol. 2011. 29(2):331-6.	Observational, retrospective	41 patients					CyA was used in only one patient
Efficacy of traditional and biologic agents in different clinical phenotypes of adult-onset Still's disease. Arthritis Rheum. 2010. 62(8):2530-5.	Observational, retrospective	45 patients					Efficacy of MTX, 73%; CyA, 75%
Adult-onset Still's disease: clinical, serological and therapeutic considerations. Clin Exp Rheumatol. 2013. 31(1):47-52.	Observational, retrospective	44 patients					Efficacy of MTX, 63.6%; CyA, 50%
Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease. Mod Rheumatol. 2009. 19(1):57-63.	Observational, retrospective	34 patients					MTX dose <= 8mg/week

【SR-4 引用文献リスト】		
	文献 ID	書誌情報
採用論文	E. Riera 2011 S. Franchini 2010 C. Iliou 2013 M. Mitamura 2014	Adult onset Still's disease: review of 41 cases. <i>Clin Exp Rheumatol.</i> 2011. 29(2):331-6. Efficacy of traditional and biologic agents in different clinical phenotypes of adult-onset Still's disease. <i>Arthritis Rheum.</i> 2010. 62(8):2530-5. Adult-onset Still's disease: clinical, serological and therapeutic considerations. <i>Clin Exp Rheumatol.</i> 2013. 31(1):47-52. Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease. <i>Mod Rheumatol.</i> 2009. 19(1):57-63.
不採用論文		
その他の引用論文		

アウトカム		臨床的有用性																								
個別研究		バイアスリスク*																								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例減少バイアス	その他	上昇要因**			非直接性*			リスク人数（アウトカム率）													
研究コード	デザイン	差背景因子の差	ケアの差	ト不適ム切測な定アウ	ロ不完全アッなブフォ	交不格十のア他スの調整	バそ他のアスの	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分子	対照群分子 (%)	介入群分子	介入群分子 (%)	～効果類指標	～効果値指標	信頼区間		
E. Riera 2011	後ろ向	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-1	-2	-2	-2	-2	1	0	0	20	13	65	NA	NA	NA	
S. Franchini 2010	後ろ向	-2	-2	-1	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-1	-1	-1	-1	-1	12	9	75	22	16	73	NA	NA	NA
C. Iliou 2013	後ろ向	-2	-2	-1	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-1	-2	-2	-1	-2	8	4	50	11	7	63.6	NA	NA	NA
M. Mitamura 2014	後ろ向	-2	-2	-1	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-1	-2	-2	-1	-2	7	6	86	10	1	10	NA	NA	NA
コメント（該当するセルに記入）																										
			アウトカムの記載が不明確															アウトカムの記載が不明確								
																		MTX, CyAについてdoseも記載あり								
																		ステロイド抵CyAはMTX使用困難例に使用								
																		MTX doseが8mg/wまで								

【SR-7 評価シート エビデンス総体】																	
診療ガイド ライン	AOSD																
対象	ステロイド抵抗性AOSD																
介入	MTX																
対照	CyA																
エビデンス総体	リスク人数（アウトカム率）																
アウトカム	研究数 デザイ ン／ アスリ スク	* バイ ア スリ スク	* 非 一 貫 性	* 不 精 確 性	* 非 直 接 性	ア ス の な ど) (出 版 バ イ	* 上 昇 要 因 (観 察 研 究)	対 照 群 分 母	対 照 群 分 子	(%)	介 入 群 分 母	介 入 群 分 子	(%)	効 果 指 標 (種 類)	効 果 指 標 統 合 値	95 % 信 頼 区 間	* 強 さ エ ビ デ ン ス の * 重 要 性
臨床的有用性	後ろ向 きコ	-2	-2	-2	-2		0	28	19	67.857	63	37	58.73	NA	NA	NA	D (非 常に弱)
有害事象	後ろ向 きコ	-2	NA	-2	-2		0	7	3	42.9	10	NA	NA	NA	NA	NA	D (非 常に弱)
コメント（該当するセルに記入）																	

【SR-9 定性的システムティックレビュー】	
CQ	ステロイド抵抗性 ASD に対して、メトレキサートとシクロスルホリンのどちらが有用か
P	ステロイド治療抵抗性 ASD
I	メトレキサート
C	シクロスルホリン
臨床的文脈	治療
01	臨床的有用性
非直接性のまとめ	4本の後ろ向きコホート研究を対象に SR を実施した。 メトレキサートとシクロスルホリンの臨床的有用性について直接比較した報告はなく、非直接性は高いと判断した。
バイアスリスクのまとめ	後ろ向きコホート研究のためバイアスリスクは高い。
非一貫性その他のまとめ	報告結果にばらつきも大きく、深刻な非一貫性があり、症例数も少ないことから深刻な不正確性がある。
コメント	
02	有害事象
非直接性のまとめ	1本の後ろ向きコホート研究を対象に SR を実施した。メトレキサートとシクロスルホリンの有害事象について直接比較した報告はなく、シクロスルホリン投与例における有害事象について言及した報告が 1本あったのみであり、非直接性は高いと判断した。
バイアスリスクのまとめ	後ろ向きコホート研究のためバイアスリスクは高い。

非一貫性その他のまとめ	一貫性については評価不能である。
コメント	

【SR-11 システマティックレビューレポートのまとめ】
<p>4本の後ろ向きコホート研究を対象に、SRを実施した。</p> <p>いずれの研究でもステロイド抵抗性ASDに対するメトトレキサート、シクロスルホリンの臨床的有用性は報告されているものの、直接的な有用性の比較はなされておらず、どちらの有用性が高いかを評価することはできなかった。</p> <p>有害事象については、シクロスルホリン投与例についてのみ1本の後ろ向きコホート研究(M Mitamura et al. 2014)において言及されていた。本文献によるとシクロスルホリンを投与された7例の患者のうち、2例に感染症（脳ノカルジア症、肝臓ノカルジア症、各1例）及び1例に肝機能障害の発現が認められた。しかしながら有害事象発現リスクにおけるメトトレキサートとシクロスルホリンの比較は困難だった。</p> <p>以上から、エビデンスの強さは「非常に弱い」と判断した。</p>

ASD CQ20

【4-1 データベース検索結果】

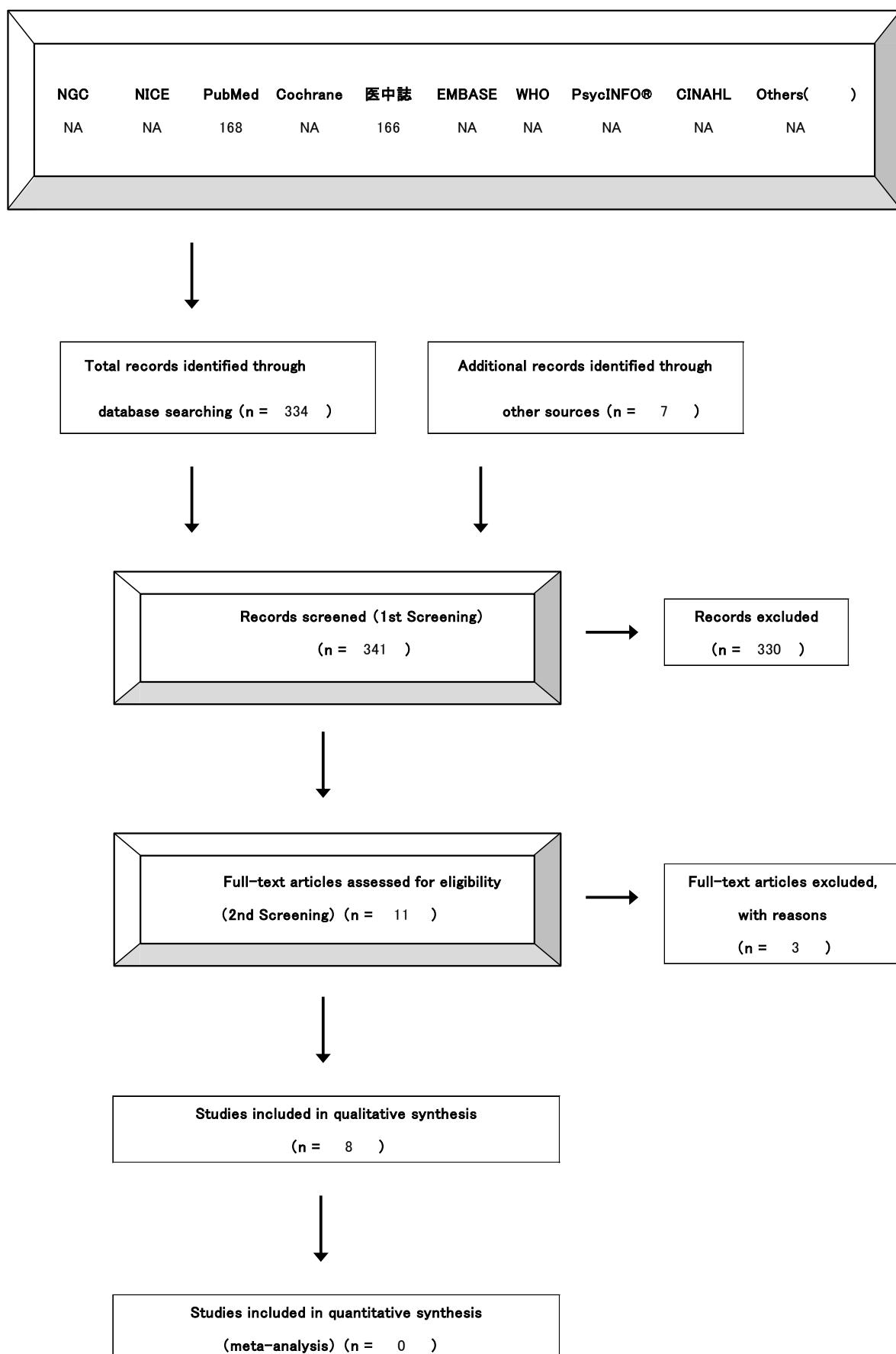
タイトル	ASD
CQ	CQ20 疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は ASD に対して有用か
データベース	PubMed
日付	2015/8/22
検索者	高橋(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	Still's Disease, Adult-Onset/drug therapy[MH]	412
#2	Arthritis [MH] or arthropathy[MH] 282689 #3Antirheumatic Agents[MH] or Antirheumatic Agents[PA]	386242
#3	("2000/01/01"[PDat] : "2015/05/31"[PDat]) AND Humans[Mesh] AND (English[lang] OR Japanese[lang])	6413872
#4	#1 and #2 and #3 and #4	168

タイトル	ASD
CQ	CQ19 疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は ASD に対して有用か
データベース	医中誌
日付	2015/8/22
検索者	高橋(日本医学図書館協会)/武井(鹿児島大学)/岡本(大阪医科大学)

#	検索式	文献数
#1	(Still 痘-成人/TH or 成人スタイル病/AL)	1691
#2	(関節炎/TH or 関節炎/AL)	131451
#3	(#1 and #2) and SH=薬物療法	692
#4	(抗リウマチ剤/TH or 抗リウマチ薬/AL)	124420
#5	疾患修飾抗リウマチ薬/AL	26
#6	(免疫抑制剤/TH or 免疫抑制薬/AL)	121865
#7	(抗リウマチ剤/TH or DMARDs/AL)	124379
#8	#4 or #5 or #6 or #7	190170
#9	#3 and #8	364
#10	(#8) and (PT=会議録除く CK=ヒト PDAT=2000/01/01:2015/05/31)	166

【4-2 文献検索フローチャート】PRISMA声明を改変



【4-3 二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究 デザイン	P	I	C	O	除外	コメント
Riera E. Clin Exp Rheumatol. 2011	retrospective	ASD 41	N→ N+CS→ N+C+DMARDs→ N+C+D+bio	N+CS	response		gold:2, HCQ:1, AZP:1, salazopurine:1, leflunomide:1, 全て無効で MTX に 移行
Yeh HM. Formos Med Assoc. 2010	case report	ASD 1case	CS→mPSL パル ス 維持:低用量 PSL+AZP	CS のみ	remission		remission 繼続
Mitamura M. Mod Rheumatol. 2009	retrospective	ASD 34(うち CyA 使 用 7)	CS 無効・依存に DMARDs	CS	improveme nt		CPA:2, MZB:2, TAC:1, SASP:1, leflunomide:1 TAC 以外は無効
森博子. 糖尿病. 2008	case report	ASD 1case	PSL7mg+NSAIDs +ASP+MZB100mg	none	多尿、口 渴、体重減 少、HA1c 12.9%	✓	糖尿病誘発 outcome 合致せず
Singh S. Clin Rheumatol. 2008	retrospective	ASD 14	N+CS→MTX or DMARD	CS	remission		SASP: 5 人で使用さ れ 3 人で悪化、1 人 無効、1 人改善
Murakami K. Mod Rheumatol. 2007	case report	ASD 1case	PSL,MTX/CyA/IF X/ETN 不応例に TAC	MTX	improveme nt		TAC 開始後症状・サ イトカイン・データ改 善
Pay S. Clin Rheumatol. 2006	retrospective	ASD 95	N→ N+CS→ N+CS+MTX or HCQ or DMARDs	N+CS	response		CS+AZP: 2/2 CS+SASP: 0/1

Cefle. Ann Pharmacother. 2005	case report	AD 1case	N+CS →mPSL pulse+MTX→ AZP+MTX→ IVCYC→AZP+ LEF	none	improveme nt	✓	単独の効果ではない
Jung JH. Clin Exp Rheumatol. 2000	retrospectiv e	ASD 41	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs		clinical improveme nt, AE(nausea, fever, urticaria, pancytope nia, hepatitis, azotemia,h ypotension)		10人 SASP 使用 10人中 6人が AE で 中止、3人が効果な しで中止
Masson C. Rev Rheum Engl ed. 1995	retrospective	ASD 65	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs	CS	なし	✓	gold:2, antimalarial:10, D- penicillamine:6, salazopurine:3, dapsone:3, levamisole:1, tiopronin:1 , chlorambucil:1, CPA:1 MTX に比し効果弱い (outcome なし)
Wouters B. Q J med. 1986	retrospective	ASD 45	N→ N+CS→ N+CS+DMARDs	CS	response		HCQ:3/3 Aurothioglucose:2/8 penicillamine:2/6 AZP:1/1 診断基準:ARA の JRA

【4-4 引用文献リスト】

採用論文	Riera E. Clin Exp Rheumatol 29:331–6, 2011	Adult onset Still's disease: review of 41 cases.
	Yeh HM. Formos Med Assoc 109:85–8, 2010	Adult-onset Still's disease complicated with hemophagocytic syndrome.
	Mitamura M. Mod Rheumatol 19:57–63, 2009	Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease.
	Singh S. Clin Rheumatol. 27:35–9, 2008	Adult onset Still's disease: a study of 14 cases.
	Murakami K. Mod Rheumatol 17:167–70, 2007	Successful treatment of a patient with refractory adult Still's disease by tacrolimus.
	Pay S. Clin Rheumatol 25:639–44, 2006	A multicenter study of patients with adult-onset Still's disease compared with systemic juvenile idiopathic arthritis.
	Jung JH. Clin Exp Rheumatol 18:245–8, 2000	High toxicity of sulfasalazine in adult-onset Still's disease.
	Wouters B. Q J med 61:1055–65, 1986	Adult-onset Still's disease; clinical and laboratory features, treatment and progress of 45 cases
不採用論文	Cefle A. Ann Pharmacother 39:764–7, 2005	Leflunomide and azathioprine combination in refractory adult-onset Still's disease.
	Masson C. Rev Rhum Engl Ed 62:758–65, 1995	Adult Still's disease. Part II. Management, outcome, and prognostic factors.
その他の引用論文		森博子. 糖尿病. 51:33–7, 2008 ミゾリビンにより急激な高血糖をきたした1例

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は、ASDの関節炎に対して有用か
対象	ASD の関節炎
介入	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
対照	副腎皮質ステロイド単独治療

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

**上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O1: 関節炎の改善																								
個別研究		バイアスリスク*																								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)												
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大さき	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Jung JH. 2000	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	103	88	86.2	10	7	70	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-1	-1	0	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	0	0	-1	27	NA	NA	7	6	85.7	NA	NA	NA
Murakami K. 2007	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Pay S. 2006	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	67	57	85.1	NA	NA	NA
Riera E. 2011	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	0	-1	-1	32	12	37.5	20	10	50	NA	NA	NA
Singh S. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	11	9	81.8	NA	NA	NA
Wouters B. 1986	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	18	8	44.4	NA	NA	NA
Yeh HM. 2010	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

SSZ、後ろ向き、ASD1 Ovs109RA										対照が RA(関節炎)	副作用の比較										
CsA、後ろ向き、対照なし、n=7															記載なし						Remissionの定義、発熱、関節炎、CRP陰性
TAC1例報告																					
ASD95,sJIA 25比較、CS 不応例に追加										寛解は関節炎かつ全身症状改善											CS不応例に追加された例が対象なので、CS群と比較不能
ASD95例の review, DMARDs使用20										改善の定義:全 身関節症狀以外、 CS減量効果が含ま れている											
ASD14例、 CS1例、 DMARD11 例										改善の定義なし											
ASD45例、 CS21例、 DMARD18 例									関節炎の有無不明		改善の定義・ systemic and/or arthritis										改善の定義不明確、症例数ではなくtrial数
1例報告 MAS																					

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は、ASDの関節炎に対して有用か
対象	ASD の関節炎
介入	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
対照	副腎皮質ステロイド単独治療

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O2: 再発抑制																								
個別研究		バイアスリスク*																								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	上昇要因**			非直接性*			リスク人数(アウトカム率)												
研究コード	研究デザイン	背景因子の差	ケアの差	不適切なアウトカム測定	不完全なフォローアップ	不十分な交絡の調整	その他のバイアス	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大さ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Jung JH. 2000	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-1	-1	0	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	0	-1	-1	NA	NA	NA	7	6	85.7	NA	NA	NA
Murakami K. 2007	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Pay S. 2006	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Riera E. 2011	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Singh S. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Wouters B. 1986	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
Yeh HM. 2010	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	0	0	-2	-1	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	

コメント(該当するセルに記入)

SSZ、後ろ向き、ASD1 Ovs109RA										ASD 関節炎	DMA RD介入	対照が RA(関節炎)	副作用の 比較								
CsA、後ろ向き、対照な TAC1例報告																					
ASD95.sJIA 25比較、CS 不応例に追 加																					評価なし
ASD95例の review, DMARDs使 用20																					評価なし
ASD14例、 CS1例、 DMARD11 例																					評価なし
ASD45例、 CS																					評価なし
1例報告 MAS																					評価なし

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は、ASDの関節炎に対して有用か
対象	ASD の関節炎
介入	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
対照	副腎皮質ステロイド単独治療

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O3:副腎皮質ステロイドの減量																	リスク人数(アウトカム率)						
個別研究		バイアスリスク*															リスク人数(アウトカム率)								
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめ	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大きさ	まとめ	対象	介入	対照	アウトカム	まとめ	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Jung JH. 2000	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-1	-1	0	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	0	0	-1	NA	NA	NA	7	NA	NA	NA	NA
Murakami K. 2007	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	NA	NA	NA	1	1	100	NA	NA
Pay S. 2006	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Riera E. 2011	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Singh S. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	11	9	81.8	NA	NA
Wouters B. 1986	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Yeh HM. 2010	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

コメント(該当するセルに記入)

	SSZ、後ろ向き、ASD1 Ovs109RA									ASD 関節炎	DMA RDs	RA	副作用												
CsA、後ろ向き、対照なし、n=7																									
CsA、後ろ向き、対照なし、n=7																									1例報告
ASD95,sJIA 25比較、CS 不応例に追加																									CS減量評価無
ASD95例の review, DMARDs使 用20																									
ASD14例、 CS1例、 DMARD11 例																									評価無
ASD45例、 CS21例、 DMARD18 例																									評価無
1例報告 MAS																									

【4-6 評価シート 観察研究】

診療ガイドライン	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)は、ASDの関節炎に対して有用か
対象	ASD の関節炎
介入	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
対照	副腎皮質ステロイド単独治療

*バイアスリスク、非直接性

各ドメインの評価は“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(-2)”、“中(-1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

** 上昇要因

各項目の評価は“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階

まとめは“高(+2)”、“中(+1)”、“低(0)”の3段階でエビデンス総体に反映させる

各アウトカムごとに別紙にまとめる

アウトカム		O5:薬剤の継続的服用(継続率)																							
個別研究		バイアスリスク*										リスク人数(アウトカム率)													
		選択バイアス	実行バイアス	検出バイアス	症例現象バイアス	その他	まとめて	量反応関係	効果減弱交絡	効果の大さき	まとめて	対象	介入	対照	アウトカム	まとめて	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標(値)	信頼区間
Jung JH. 2000	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Mitamura M. 2009	症例集積	-2	-1	-1	0	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Murakami K. 2007	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Pay S. 2006	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Riera E. 2011	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-1	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Singh S. 2008	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Wouters B. 1986	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Yeh HM. 2010	症例集積	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	0	0	0	0	0	-2	0	-2	-2	-2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	ASD CQ19 疾患修飾性抗リウマチ薬 (disease modifying antirheumatic drugs)
対象	ASD の関節炎
介入	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
対照	副腎皮質ステロイド単独治療

エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート

* 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階

** エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階

*** 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

アウトカム	研究 デザイン/ 研究 数	バイ アスリ スク*	非一 貫性*	不精 確*	非直 接性*	その 他の(出 版バ イア スな ど)*	上昇 要因 (観察 研究)*	リスク人数(アウトカム率)						効果 指標 (種 類)	効果 指標 統合 値	信頼区間	エビデ ンスの 強さ**	重要性 ***	コメント
								対照 群分 母	対照 群分 子	(%)	介入 群分 母	介入 群分 子	(%)						
関節炎の改善	症例 集積 /6	-2	-1	-1	-1	0	0	135	100	74.1	133	97	72.9	NA	NA	NA	弱(C)	4	介入群はCS難治 例が多数含まれる 可能性あり
再発抑制	症例 集積	-2	-2	-2	-2	0	0	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	3	
ステロイドの減量	症例 集積	-2	-2	-2	-2	0	1	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	3	
薬剤アレルギー	症例 集積	-2	-2	-2	-2	0	2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	3	
薬剤の継続的服用(継 続率)	症例 集積	-2	-2	-2	-2	0	3	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	非常に 弱(D)	3	

コメント(該当するセルに記入)

【4-8 定性的システムティックレビュー】

CQ	19	疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)はASDの関節炎に 対して有用か
P		スチル病の発熱、関節症状、全身炎症、臓器障害、マクロファージ活性化症候群。性別・年齢指定なし。
I		疾患修飾性抗リウマチ薬(disease modifying antirheumatic drugs)併用
C		副腎皮質ステロイドの単独治療
臨床的文脈		ASDの治療(非生物学的製剤)
O1		関節炎の改善
非直接性のまとめ		2つの症例集積論文で中等度であったが、他の6症例集積論文はすべて高度であった。
バイアスリスクのまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
非一貫性その他のまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
コメント		関節炎に対するDMARD併用の有効性は、ステロイド単独治療群と比べて同等以上であった。症例集積論文であるため、CS不応例にDMARDが併用され、その後に評価された可能性があることから、DMARD併用は関節炎の改善に有用である可能性がある。
O2		再発抑制
非直接性のまとめ		1つの症例集積論文で中等度であったが、残り7論文では高度であった。
バイアスリスクのまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
非一貫性その他のまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
コメント		8つの症例集積論文のいずれも、再発をアウトカムとした記載はなく、1つの論文がその可能性を示唆していたが、対照群をおいていないことからエビデンスは極めて低く、DMARD併用がASD再発を抑制する証拠は得られなかった。
O3		副腎皮質ステロイドの減量
非直接性のまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
バイアスリスクのまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
非一貫性その他のまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。
コメント		ステロイド減量をアウトカムとして評価した論文はなく、また減量に関する記載もないことから、DMARD併用がステロイド減量に有用であるかは不明であった。
O5		薬剤の継続的服用(継続率)
非直接性のまとめ		8つの症例集積論文の全てで高度であった。

バイアスリスクのまとめ	8つの症例集積論文の全てで高度であった。
非一貫性その他のまとめ	8つの症例集積論文の全てで高度であった。
コメント	薬剤の継続性をアウトカムとして評価した論文はなく、また継続性に関する記載もないことから、DMARD の継続性に関しては不明であった。

【4-10 SR レポートのまとめ】

8本の症例集積研究[採用論文1-8]を対象にSRを行ったが、対照群を設定して直接検討したものはなかった。

3つの症例集積研究では、DMARD併用は、関節炎の改善においてステロイド単独群と同等あるいはそれ以上に有用であったが、直接的な比較ではなかった(エビデンスの強さC)[採用論文3・4・6]。再発の抑制、ステロイドの減量、薬剤の継続性については検討されておらず、DMARDsの有用性は不明であった(D)。

以上から、エビデンスは低いものの、DMARDの併用はASDの関節炎に有用である可能性が示唆された。

【引用文献リスト】

採用論文	Riera E. Clin Exp Rheumatol 29:331-6, 2011 [1]	Adult onset Still's disease: review of 41 cases.
	Yeh HM. Formos Med Assoc 109:85-8, 2010 [2]	Adult-onset Still's disease complicated with hemophagocytic syndrome.
	Mitamura M. Mod Rheumatol 19:57-63, 2009 [3]	Cyclosporin A treatment for Japanese patients with severe adult-onset Still's disease.
	Singh S. Clin Rheumatol. 27:35-9, 2008 [4]	Adult onset Still's disease: a study of 14 cases.
	Murakami K. Mod Rheumatol 17:167-70, 2007 [5]	Successful treatment of a patient with refractory adult Still's disease by tacrolimus.
	Pay S. Clin Rheumatol 25:639-44, 2006 [6]	A multicenter study of patients with adult-onset Still's disease compared with systemic juvenile idiopathic arthritis.
	Jung JH. Clin Exp Rheumatol 18:245-8, 2000 [7]	High toxicity of sulfasalazine in adult-onset Still's disease.
	Wouters JM. Q J med 61:1055-65, 1986 [8]	Adult-onset Still's disease; clinical and laboratory features, treatment and progress of 45 cases